

# 魚津市中期財政計画（概要版）

【令和5年10月策定】

## 1 計画策定の目的

- エネルギー価格等の高騰による財政負担の増加が懸念される中、少子高齢化や人口減少により市税収入が落ち込み、社会保障関係費が増加見込
- 本庁舎をはじめとする公共施設の老朽化が進んでいることから、今後、その建替えなどに多額の費用が必要



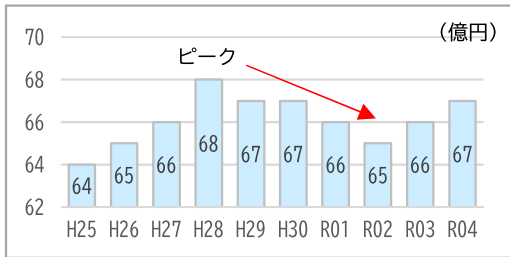
計画的な行財政運営に向けて「魚津市中期財政計画」を策定

## 2 基本的な考え方

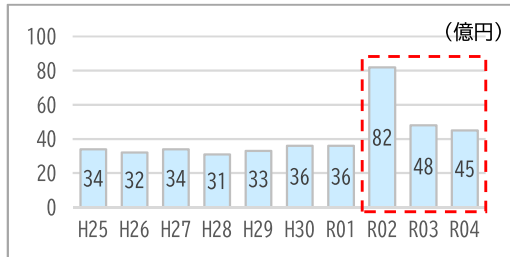
- ①計画期間  
令和6年度～令和10年度（5年間）
- ②計画の見直し  
今後の財政状況や新たな行政需要などを考慮し、毎年度見直し
- ③会計の単位  
財政見通しの会計単位は「一般会計」

## 3 魚津市の財政状況

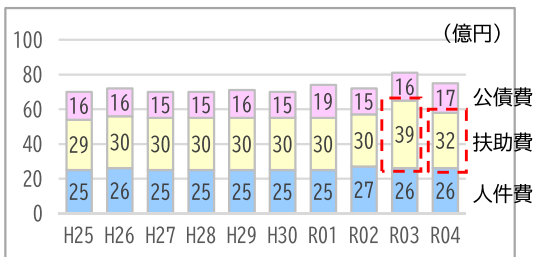
- ①市税の推移  
H28をピークに減少後、R3から回復



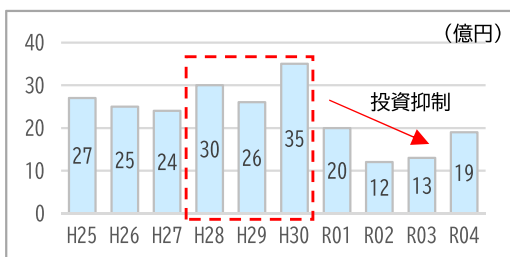
- ②国・県支出金の推移  
コロナ・物価高騰対策のためR2～R4増加



- ③義務的経費の推移  
コロナ・物価高騰対策のため扶助費増加



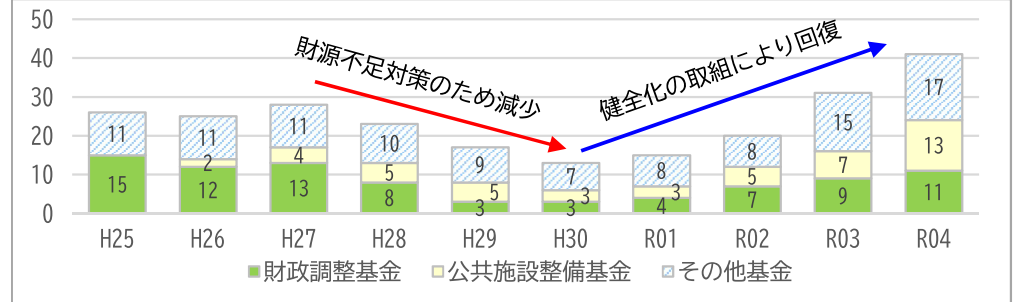
- ④投資的経費の推移  
統合小建設のためH28～H30増加



## 4 基金の状況 (H25～R4)

- 平成28年度以降、財源不足を補填するため基金残高は急速に減少
- 令和2年度以降、行財政改革に取り組んだ結果、基金残高は回復

＜年度末基金残高の推移＞ (単位：億円)



## 5 財政収支見通し (R6～R10)

- 義務的経費は、公債費が一時的に減少していくものの、扶助費が社会保障関係費の伸びにより増加傾向であるため、全体的に高い水準で推移
- コミュニティセンターや新庁舎の整備などにより、中期的に投資的経費とその財源である市債等（その他収入）が増加見込

＜一般会計 歳入・歳出の財政見通し＞ (単位：百万円)

歳入	R05当初	R06見込	R07見込	R08見込	R09見込	R10見込
市税	6,662	6,423	6,441	6,459	6,304	6,321
地方交付税	3,200	3,480	3,470	3,460	3,550	3,540
その他収入	8,505	9,809	9,268	9,665	10,948	9,655
歳入合計①	18,367	19,712	19,179	19,584	20,802	19,516
歳出	R05当初	R06見込	R07見込	R08見込	R09見込	R10見込
義務的経費	7,890	7,804	7,824	7,758	7,832	7,945
投資的経費	1,547	3,151	2,190	2,563	4,381	2,913
その他経費	8,930	9,062	9,373	9,433	8,816	8,980
歳出合計②	18,367	20,017	19,387	19,754	21,029	19,838
差額 (①-②)	0	△305	△208	△170	△227	△322

## 6 計画的な行財政運営に向けて（今後の取組）

- 毎年の財源不足は、事務事業の見直しなど継続的な行財政改革の取組や国・県の補助金、企業版ふるさと寄附といった財源を確保することで解消
- 財政調整基金は、安定的な行財政運営に向けて適正な残高を確保
- 公共施設整備基金は、令和6年度以降、毎年3億円以上を積み立て、本格化する新庁舎整備に備え令和8年度末までに残高20億円以上確保
- 減債基金は、令和9年度以降、剰余金を活用しながらできるだけ積立